

第42回水の都ひろしま推進協議会【議事録】

1 日 時

平成30年(2018年)5月29日(火) 18:30~19:30

2 場 所

広島市役所14階第7会議室

3 出席委員

別紙参照

4 協議概要

(1) 開 会

(2) 議 事

ア 審議事項

- ・平成29年度事業報告及び収支決算報告について
—原案のとおり承認—

イ その他

- ・「水の都ひろしま」推進計画の見直しの進め方

《辻委員》

資料作成について、「水の都ひろしま」推進計画の最後に事業体系表があるが、修正箇所を体系表の中に落とし込んでいただければ分かりやすい。

《阪谷委員》

前回、委員の皆様から提案を頂いた今後の新たな展開の提案について、事務局から状況報告があったが、それについて、具体化するためのご意見を頂ければと思う。また、他にアイデアがあれば頂きたい。

《辻委員》

前回、「水辺のオープンアトリエ」を提案した。市立大学には芸術学部があり、基町高校も芸術に力を入れており、芸術で水辺が繋がれば良いと思う。

次のステップとしては、コンテンツを増やすこと。自分はピースツーリズムにも関わっている。推進計画では、4つの地区で重点的に取り組んでいるが、すでに充足している地区もある。地区の範囲を広げたり、新しい地区を加えてもよいのではないかと思う。

《山田明委員》

計画を作った時と時代背景がだいぶ変わってきていると思う。訪日外国人の宿泊者は中国地方で日本全体の2%しかない。経済では日本全体の6~8%を担っているの、そのくらいは欲しい。

以前に広島市が行なった訪日外国人でのアンケート結果では、1日若しくは2日で他に移動しているという現実があることから、水の都ひろしまの魅力を発信して引き止めるということが必要となってきたと思う。

時代背景が変わったことや訪日外国人対策としての情報発信の視点を入れた方が、なぜ計画を見直したのかということの意味になるのではないかと思う。

《西名会長》

外国人観光客が増加している中で、あまり中国地方に来ていない状況があるが、起爆剤として水の都ひろしま推進計画の中で位置付けができればよいと思う。

オープンカフェのように、欧米諸国の方が来られて、自分の国にあるものがここにもあると感じて頂くことができれば、もう少しゆっくりしていこうとなるのではないかと思うので、そのような観点も入れてほしい。

・市川委員より、中村良夫東京工大名誉教授の著作に広島事例が記述されていることの紹介あり。

(3) 閉 会

出席委員

分野	所属	役職	氏名	出欠	備考
有識者	広島大学大学院	教授	西名 大作	○	
	比治山大学	教授	山田 知子	○	
	近畿大学	准教授	市川 尚紀	○	
市民団体等	ポップラ・ペアレンツ・クラブ	幹事	隆杉 純子	○	
	京橋川かいわいあしがるクラブ	代表	山本 恵由美	○	
	広島市内水面漁業協同組合	代表理事組合長	鈴木 修治	○	
経済・観光等	(一社)広島県観光連盟	専務理事	梅木 敏明	欠	
	(一社)広島県生活衛生同業組合連合会	会長	佐々木 克己	○	代理：静村事務局長
	(一社)日本旅行業協会中四国事務局	事務局長	辻 孝和	○	
行政	国土交通省	中国地方整備局 企画部広域計画課長	山田 明	○	
		中国運輸局観光部 観光地域振興課長	出口 敦	○	
	広島県	土木建築局 河川課長	木村 成弘	○	
	広島市	経済観光局 観光政策部長	阪谷 幸春	○	